



特集 1

有害鳥獣から農業を守れ

● 問合先 農業振興課営農流通係 (☎☎2557)

手塩にかけて育て、ようやく収穫時期を迎えた農作物が、一夜にして食い荒らされました。田や畑が掘り起こされたり荒らされたりして壊滅状態。これからどうしたらいいか分かりません。

このようなことが、市内でも実際に起きています。

皆さんは、イノシシやカラスなどの有害鳥獣が、わがまちの農業の存続を脅かすほどの存在であり、農作物などに多大な被害を加えていることを知っていますか。また、その有害鳥獣を退治してくれる人たちがいることや、有害鳥獣が年間にどのくらい捕獲されているかを知っていますか。

今回の特集では、『農業を守る』との使命感のもと、有害鳥獣の駆除に向き合う市猟友会の活動などを紹介しながら、有害鳥獣からわがまちの農業を守るために、私たち一人一人に何ができるかを考えます。

有害鳥獣とは

有害鳥獣の種類

有害鳥獣とは、人や農作物、家畜などに被害を与える野生動物をいいます。市が対策を行う対象となる有害鳥獣は、『伊万里市有田町鳥獣被害防止計画』に定めていて、イノシシ、サル、アライグマ、アナグマ、タヌキ、カラス類、ドバト、カモ類、バン、サギ類を指定しています。

有害鳥獣の被害

有害鳥獣は、梨やぶどう、水稲などさまざまな農作物に被害をもたらします。平成30年度は被害面積19.5ha、被害量103.2t、被害金額は1850万1000円にも上ります。

有害鳥獣ごとに見てみると、イノシシによる被害が全体の71.0割と最も多く、次いでカラス(13.8割)、アライグマ(9.7割)の順となっています【表1】。さまざまな被害が後を絶たず、市の農業にとって、有害鳥獣による被害を防ぐ取り組みが急務となっています。

【表1】市内の平成30年度の有害鳥獣別被害の内訳

| 種類 | 実被害面積 (ha) | 被害量 (t) | 被害金額 (千円) | 被害金額の割合 (%) |
|-------|------------|---------|-----------|-------------|
| イノシシ | 17.7 | 71.7 | 13,128 | 71.0 |
| カラス | 0.8 | 13.3 | 2,556 | 13.8 |
| アライグマ | 0.4 | 9.8 | 1,800 | 9.7 |
| タヌキ | 0.2 | 7.3 | 800 | 4.3 |
| カモ | 0.4 | 1.1 | 217 | 1.2 |
| 計 | 19.5 | 103.2 | 18,501 | 100.0 |

イノシシ

雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べる。本来は日中に行動する動物だが、人の少ない夜間に活発に行動する。落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など食料となるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好む。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の行動をまねるなど高い学習能力を持つ。垂直に1.2mの高さを飛び越え、20cmの隙間をくぐり抜ける。鼻で押し上げて70kgの石を簡単に動かすことができる。

交尾期は年に1回で12～2月頃、出産期は4～6月頃。満2歳で初産を迎え、平均4、5頭を産む。



カラス

農作物全般を食害する。もともと人の営みにつかず離れず生きてきた鳥なので、餌を得るために道具を使いこなすなど、人のそばで生き抜くための賢さを備えている。天敵はいないに等しく、卵やヒナを除くと猛きん類でもカラスを襲うことはほとんどない。

繁殖期は3月～6月半ばまでで、3～6個の卵を産み、幼鳥は9月ごろ巣立つ。生後2、3年以上たないと繁殖に参加できない。夏から秋、冬へと以降するにつれて『ねぐら』は大きくなり、冬は数千～数万羽にもなる。



農作物を守る救世主

猟友会と有害鳥獣捕獲隊

有害鳥獣による被害を防ぐ取り組みの中で特に重要な役割を果たすが、駆除対策です。

それを一身に担うのが、『市猟友会（会長 前田幸彦さん、会員数107人）』と『市有害鳥獣捕獲隊』の活動。市猟友会は、狩猟免許を持つ人などで組織され、有害鳥獣駆除期間（平成30年度は5月1日～2月28日）に各地区で銃猟やわな猟により有害鳥獣を駆除する活動などを行っています。また、



↑市有害鳥獣捕獲隊辞令交付式の様子

狩猟免許を持ち捕獲活動ができる市猟友会の会員の中から12人を『市有害鳥獣捕獲隊』として市が任命し、捕獲活動やパトロール活動をしています。（市猟友会による有害鳥獣の捕獲実績は【表2】のとおり）

捕獲隊の活動

①緊急出動（年間約50件）

生産者や市民からの目撃情報や被害情報を受け、有害鳥獣が出没する農地などへ出動します。イノシシは主に箱わなを使って捕獲しますので、近くの猟友会会員に連絡し、わなを設置してもらいます。また、果樹園などでのカラスの追い払いを行い、園地に近寄りにくい環境を作ります。

②集落パトロール（年間24回）

ワイヤーメッシュなどの侵入防止柵の点検を行うことで、有害鳥獣の侵入口を早期に発見し、被害を未然に防ぎます。また、隠れ家となるやぶや、餌付けとなる田畑に廃された果樹などを確認し、有害鳥獣が近寄りにくい環境を作ります。

【表2】市内の有害鳥獣捕獲頭数の推移

| 年度 | イノシシ (頭) | アライグマ (頭) | アナグマ (頭) | タヌキ (頭) | カラスなど (羽) | 備考 |
|------|-------------|--------------|-------------|------------|--------------|--------------|
| H 26 | 3,303 | 181 | 55 | 189 | 172 | その他サル1頭 |
| H 27 | 3,825 | 156 | 68 | 71 | 181 | カラスなどにカモ1羽含む |
| H 28 | 4,523 | 172 | 135 | 89 | 502 | |
| H 29 | 3,028 | 154 | 117 | 62 | 471 | |
| H 30 | 3,244 | 178 | 67 | 44 | 330 | |

※駆除期間は、5月～2月（H28は4月～2月）

とても大変な捕獲作業

イノシシは警戒心が強く、身の危険を感じたら人を襲うこともあります。実際に捕獲作業の時に襲われ、けがをした猟友会会員もいます。また、捕獲後は殺処分をします。あの会員は「有害鳥獣とはいえず相手は生き物。かわいそうになり躊躇するが、これ以上の被害を防ぐため、やむをえず処分している」と言います。さらに、中には100kgを超える巨体を埋設しなければならず、一連の捕獲作業はとて大変です。

捕獲作業従事者の確保

市猟友会の会員数は減少傾向で、平成30年度では104人になっています。また、会員の平均年齢も、年々上がってきています。捕獲には技術が必要であり、熟練者から捕獲技術を継承しなければなりません。捕獲技術を持つ会員がこのまま減少していくと、捕獲できる頭数が減ってしまい、有害鳥獣による被害が拡大してしまう可能性があります。そうならないように、捕獲作業従事者を育成していくことが急務となっています。

狩猟免許（わな猟・銃猟） 新規取得者を支援します

◆狩猟免許試験補助制度

- 対象者 狩猟免許取得年度の4月1日現在で65歳以下の人
- 補助金額 わな猟 上限5万円、銃猟 上限6万円
- 申込・問合せ先 農業振興課営農流通係
(☎☎2557)

◆狩猟免許試験

- 試験日・試験会場
▷令和2年1月26日（日）佐賀市
※詳しくは佐賀県ホームページで確認してください。
- 申込期限 試験日の3週間前
- 申込・問合せ先 伊万里市猟友会 (☎☎8837)
- ◆注意事項
▷この制度により狩猟免許を取得した人は、3年以上は有害鳥獣の駆除に取り組んでもらう必要があります。

捕獲隊が出動 有害鳥獣パトロールに密着

前ページで紹介した市有害鳥獣捕獲隊。実際の活動はどんなものなのでしょう。8月25日、捕獲隊のパトロール活動に同行しました。

カラスの捕獲

この日、まず向かったのは黒川町立目に設置されたカラスの捕獲檻。カラスが入っているとの連絡があり、確認と処分をするためです。連絡のとおり、檻には十羽ほどのカラスが。一緒に入ってしまったトビに当たらないよう、散弾銃でカラスだけを処分。「かわいそうかばってんしかたなか」。大きな銃の音が2発、山あい響き渡りました。



檻で捕獲したカラスを散弾銃で処分

住宅地の近くにイノシシ

次に向かったのは、市街地にも近い住宅地のそばにある水田。最近イノシシが目撃されたとの通報があった場所です。「作物に被害があったわけじゃないけれど、通学路でもあるけん連絡しました」と話す水田の持ち主。



水田の持ち主からイノシシの目撃情報を聞く捕獲隊員

有害鳥獣は農作物に被害を与えるばかりでなく、住民の安全な生活も脅かします。こ

の日はイノシシの侵入経路に見当をつけ、警戒を怠らないようにお願いして現場を後にしました。

恐るべきイノシシの能力

その後、捕獲隊は東山代町の山間部にある被害現場へ向かいました。

「こいじゃあ、なあんもならんもん」。捕獲隊員からため息が漏れます。電気牧柵の設置のしかたや管理のしかたが悪いため、水田にイノシシが侵入し、稲が荒らされています。



電気牧柵を適切に設置していないため、イノシシに荒らされた水田

捕獲隊がいくら頑張っても、駆除できる有害鳥獣の数には限界があります。やはり、生産者が自分の農作物をきちんと守ることが大切です。頭が良く、身体能力も優れているイノシシ。収穫が終わるまで油断ができません。



イノシシは体当たりで箱わなをずらし、中の餌を食べるとい

この現場の近くに、イノシシの『箱わな』を仕掛けたところがあると聞き、見に行ってみました。すると大きな箱わなが、最初に設置されたであろう場所から大きくずれています。「イノシシは頭のよかけん、体当たりして箱ばずらして中の餌ば食べるとよ」と、ある隊員が教えてくれました。イノシシから農作物を守るのは、大変なことなのだと思います。

捕獲隊の活動に理解を

最後に向かったのは二里町の山間部にある、被害を受けた水田。ここでは、電気牧柵がきちんと管理されていたようですが、イノシシの身体能力が上回ったようです。山からイノシシが入りしている

場所や牧柵をくぐって水田に侵入した箇所を確認することができました。

捕獲隊の武重道隆隊長は、「我々も頑張っているが、なかなか被害は減りません。収穫間近の農作物を根こそぎ荒らされる悔しさは痛いほどよく分かります。生産者の皆さんに有害鳥獣対策をしつかりやってもらいたいのはもちろんのこと、地域住民の皆さんにも我々の活動への理解と協力をお願いしたいです」と話します。

中には「捕獲報償金目当てにやっている」などの心ない言葉を耳にすることもありますが。しかし今回、約2時間のパトロールに同行しただけで、捕獲隊の苦労がよく分かりました。



今回のパトロールで出動した武重隊長(右端)ら捕獲隊の皆さん

有害鳥獣対策のために

私たちができること

市猟友会や捕獲隊は、農作物はもとより私たちの安全な生活を守るために日々活動しています。しかしそれだけでは有害鳥獣による被害をなくすことはできません。私たちが市民が理解と意識を高め、互いに協力しながら地域ぐるみで有害鳥獣を寄せ付けない環

境づくりをしなければなりません。具体的には、タヌキやアライグマなどに餌付けをしないことや、出荷できない規格外の農作物などを畑に放置したままにしないことなど、ちょっとした心がけでできることがあります。生産者が安心して農作物を作ることができるよう、また、

私たちが安全に生活できるように、一人一人が取り組んでいきましょう。

有害鳥獣対策に重要な3つのポイント

1 防除対策

国の補助事業を活用して、中山間地の農地を中心に電気牧柵やワイヤーメッシュ柵を設置し、被害防止に努めています。有害鳥獣も生きていくために必死です。知恵を働かせ、何とかして柵の中に侵入して中の農作物を食べようとします。設置後の管理がとても重要です。



有害鳥獣の侵入を防ぐワイヤーメッシュ柵

【国の事業を活用した侵入防止柵の導入】

市、有田町、伊万里市農業協同組合などで組織する伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会では、国の事業を活用し、電気牧柵やワイヤーメッシュ柵などの侵入防止柵の導入を推進しています。詳しくは農業振興課または伊万里市農業協同組合営農振興課（☎③5560）にお問い合わせください。

2 棲み分け対策

見通しが悪い林ややぶは、有害鳥獣の隠れ家になりやすく、また、捨てられた生ごみや放任果樹などがある場合は、格好の餌場になります。このため、『有害鳥獣の隠れ家や餌場をなくす』といった生息地の管理が必要です。

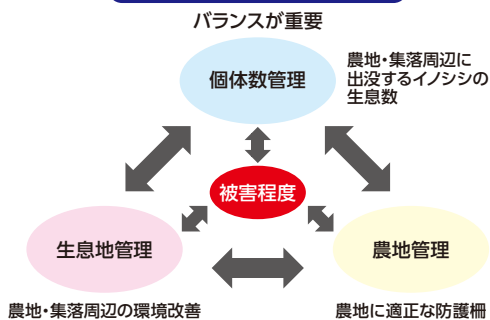


有害鳥獣の餌になってしまった畑に放置された農作物

3 駆除対策

有害鳥獣を駆除するには、狩猟免許が必要です。市では、猟友会の協力を得て、有害鳥獣の駆除対策に取り組んでいます。市のイノシシ捕獲頭数は、県内でも多い数字です。駆除を行うにあたり、殺処分や埋設などに大変な労力を必要とする中で、駆除従事者は、生産者のため、農作物を守るために尽力しています。市民のみなさんの理解と協力をお願いします。また、駆除従事者の高齢化が進む中、農作物被害を減少させるためには、駆除従事者の確保が急務となっています。

農作物被害の3要素



地域や関係機関と一体となった取り組みが重要です

市では、有害鳥獣の対策に、猟友会や捕獲隊などの関係機関と一体となって取り組んでいます。

有害鳥獣による農作物被害を効果的に減らすには『棲み分け対策』、『侵入防止対策』、『捕獲対策』の3つの対策を、地域がまとまってバランスよく実施することが重要です。『棲み分け対策』は、集落に近づけさせないために、農作物残さなどを捨てないことや、集落近くの耕作放棄地を減らすことが必要です。『侵入防止対策』は、農地に入れないよう集落単位で柵を張ることや、日頃の点検・管理を行うことが大切です。『捕獲対策』については、関係機関と協力して取り組むことや、地域で捕獲者を確保・育成することで、さらに成果が上がると考えています。

ワイヤーメッシュ柵の導入や狩猟免許の取得については、補助金制度がありますので、ぜひ活用してください。

農作物だけでなく、『集落を守っていく』という意識を持ち、地域全体で有害鳥獣対策に取り組ましましょう。



農業振興課 営農流通係 井手 功三